

## 第229回 令和8年5月15日（金）

### 「お金の価値について」

「お金持ちになりたい」とか「安心して暮らせるようになりたい」と思う人は多いと思います。老後2千万問題（老後資金として2千万円必要だと当時の政府閣僚が発言した。）や日本経済がデフォルト（財政破綻）するのではないかといった不確かな情報もあって、お金について不安を持つことも無理ないと思います。

それでは一体いくらあれば安心なのでしょう。例えば1億円稼いだ人は一生安心して暮らせるのでしょうか。私はもちろんわかりませんが、財布の中の3000円がどんどん減っていくよりも1億円の預金残高が減っていくほうが苦しいと聞いたことがあります。桁が一つ下がると不安でしょうがなくなるそうです。

何億円持っていて実際に現金を手元に置いておくわけではないのであくまで銀行通帳の数字で記入されているものです。言ってしまうとただの印刷された数字です。この印刷された数字に人間は一喜一憂しているわけです。

お金が自分のものである証明は自分の口座にあるという銀行のお墨付きです。私の貯金が銀行に現金で保管されているわけではありません。

良く考えると大きな数字が自分の通帳に印刷されていること、好きな時に使えることが「お金持ち」になるということです。でも実際は何億円も稼ぐ大富豪になって、死ぬまでに使いきれぬかと言ったら疑問符が付きます。結局ほとんどのお金持ちは自分の死後莫大な遺産相続でもめています。結局自分の人生で考えれば必要以上のお金を稼いでいたということですよ。

しかも自分の通帳にあるお金には多額の税金がかかることになり、何もしなくても目減りしていくことになります。もちろん利息などの収入はありますが、お金持ちの納税額は利息とは比べ物にならない支出になることは間違いありません。

だったら自分の通帳になくても何かが必要なら稼いでいけば、目減りすることもありませんよ。もちろん必要な額を貯めておくことは大事だと思いますが、大金持ちになることは幸せとイコールではないような気がします。

安心のためにお金を稼ぐことは大事なことです。もっと大事なのは何のためにお金を稼ぐのか、そのために大事な人生の時間が無駄になっていないか、バランスを見極めることではないかだと思います。